



【与える者が幸いです。】

聖書：ルカの福音書6章27-38節 / 暗唱成句：ルカの福音書6章38節

説教者：鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!一週間お元気で、主の平安と恵みのうちに過ごせましたか。今週から気温が下がり寒くなりそうです。また一週間も教会家族みんなが健康で守られ、主の平安で日々過ごせられますように切にお祈り申し上げます。

罪人の特徴と言えば神様に従おうとするより、自己中心的に生きようとする。哲学者ソクラテスは“汝、自らを知れ”といいました。現代心理学者たちは“たまたま、自分を主張する”ように教えています。芸術家たちは“自分の感覚や本能に従い、自分や物事を表す”ように進めます。政治家たちは“自分をもっとピアル(隠すところはうまく隠し、自分の良いところを偉く宣伝)する”ように振舞っているでしょう。教育者たちは“自分を目覚めさせ、もっと覚醒させるよう”に教えてくれます。ヒューマニストたちは“自分を信じなさい！自分で何でも出来るから！”と言います。こう言った内容自体が決して間違っているわけではありませんが、その共通点と言えば、ただ自分自身についての集中と執着が強い共通点があることが分かります。

ところが、イエスキリストの主張は聖書ではちょっと違います。聖書では“わたしについて来たい者は自分を捨てて、自分の十字架を背負って、私について来なさい。(マタイ16:24)”そして、今日の本文では本当に祝福される人とその人生は受けるより他の人たちに与える者が幸いですと教えて下さっています(使徒の働き20:35)。

我々は先週マタイの福音書5章に書かれているイエスキリストが教えて下さった山上での8つの祝福の中心のつまり、霊的に貧しい者が祝福される者であることを教えられました。いつも謙って主の御前に霊的に主の助けを、恵みを、哀れみと赦しを切に求めなければならない者であり、自分自身がいつも悪い事をしてしまう者であることを認める者には救われ天国を所有した者たちに与えられる主の力を、主の哀れみ、満ち足りる主の恵みを受ける事が実際出来ることを、マタイの福音書5章38-48節で教わりました。

今日の本文ルカの福音書6章27節から38節までの内容もマタイの福音書5章と同じように祝福されたクリスチャンたちがどのように生きればこの地上でもさらに祝福された生活ができるかを教えて下さっています。その中で今日の本文の38節がすべての先の話をもとめられた結論的な内容だと言えます。

クリスチャンとして主にあって豊かな人生を送るため、イエス様は結論的にこう言われました。

“与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいからです。”

今日の御言葉は私たちがキリストにあって豊かな人生を送るため、受ける事を祝福ですが、さらなる主の祝福を受けるために私たちが与える者として生きることを主は願っておられることを示してくださっています。もちろん、受けることも大きな神様の祝福であり、続けて必要です。愛を受けたことがある者が他の人に愛を表し、与えることができることを覚えると、分け与えられる人、その人生がただ受けるばかりの人より大きな祝福をであり、価値ある人生ではないでしょうか。

<1. 神から受けた者は与える生活をしなければなりません。>

主の慰めを経験された人々、主の哀れみを受けた人々、主の満ちしを経験された人々、イエスキリストを信じ、常に主の御言葉通りに生きようとし天国を所有した者たちは、神がこういったすべてを自分に与えて下さったようにあなたも与えなさい！与える者になりなさいと命じられているのです。

今日の御言葉に「与えなさい」という言葉は命令形として「困っている人々、何か助けが必要とする人がいるなら、あらゆる物を与えなさい。」という意味です。そして「さらに主から頂くことを望む者はまず人に与える者になりなさい。」という意味も含まれています。今日の御言葉は愛の具体的な行いについて語っています。人類歴史上一番与える生涯を送った方はまさにイエスキリストではないでしょうか。

みなさんもよくご存知のヨハネの福音書3章16節によると、「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

今日の本文の「与える(デイドミ)」という言葉はさきほど読んだ「そのひとり子をお与えになった。」という言葉にも一緒に使われてきました。救い主なる神の御子イエス様の生涯自体を一言でまとめると、与える人生でした。イエス様も「受けるよりも与えるほうが幸いです。(使徒の働き20:35)」と言われました。(地上では野宿者であり、無所有で、ご自身が持っている物はすべて弟子たちと多くの人々たちのために愛の残るところなく惜しまずに与えて下さったのではないのでしょうか。)

イスラエルの死海(しかい)は生き物が住んでいない死んだ海であって、ガリラヤは命の湖です。なぜ死海が死の海になったのでしょうか。死海は水が入ってくるだけで、流れて行かないからです。つまり受けるばかりで流さないからです。わしづかみにしていると魚たちでさえ生きれず、塩分だけが重なって結局高い塩海になり死の海になってしまうという教訓を自然を通してでも神様は私

たちに教えてくださっています。しかし、ガリラヤの湖は違います。透明できれいな水で、豊かです。その中にはたくさんの魚がいて、その周りにある木でさえ美しいです。どうしてですか。単純な原則です。水がたまっているのではなく続けて流れているからです。

<2. 我々が与える事が出来る理由: 全ての主であるイエスキリスト>

愛する信仰の家族のみなさん!この世では自分の物を分け与えたら自分の損であって、自分の分がなくなってしまうのだと言います。しかし聖書は逆に与えなさい!与えればさらに豊かにされるとイエス様は言われます。なぜでしょうか。

我々は知っているからです。私たちが持っているすべては自分の物ではなく、すべて主から一時的に各自に預けられているものであって自分の所有物ではないことを(マタイ25章14~30)知り、信じているために、主が喜ばれるところに、主が望んでおられる通りに分け与える事ができます。

“そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ記1章21節)”人の一度の人生も、命も、預けられている時間や家族、物質でさえもただ全てが主からそれぞれ能力に応じて主から各自預かっているものであって、一度のこの人生を終え、主の御前に立たされる時が来たら、主が各人生に預けて下さった物を主のためにどのように用いたのか清算する時が必ず待っている事を聖書は明確に教えて下さっているのではないのでしょうか。

そうじゃなく、主から頂いているものがあるのにも関わらず、最後までわづかみしながら、ただ自分のためしか使わなかった物に主からの厳しい評価が待っている事も聖書が教えて下さっています。

“それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、43 わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。』44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』45すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったのです。』(マタイの福音書25:41-45)”

表では、主なるイエスキリストを信じますと言いながら、実際にはまだ自分が王様のように、すべての主人のようにいつも手を握っている矛盾な生き方をすると、一生何も主のため、主が喜ばれることに分け与えることが決して出来ないのではないのでしょうか。

すべての主なるイエスキリストを受け入れ信じて救われクリスチャンになったというのは、ただ思い、心だけではなく、実生活においても我々が持っているすべてのものの主人も救い主なるイエスキリストであること認めることであります。

この信仰をしっかり握っているからは結局すべてが主のものであるため、主が望んでおられるところに喜んで分け与えようとする事になるでしょう。

信仰によって、ただ神様の恵みによって救われた神様の民の生き方はイエスキリストのように分け与える人生を常に根ざし、そのように送ります。そして、イエス様は私たちに与えなさいと言われながらそこには何の条件も付け加えませんでした。神様は私たちがみなで祝され幸せで豊かな人生を過ごすことを願っておられます。そのように生きるために神様は我々にいつも受けることを願い、それに慣れてしまい、受けれるか、そうじゃないかによって左右される人生ではなく、物であっても、心であっても与えられる人、その人生こそ、直接神からさらに祝福された道に歩み、さらに満たして下さる奇跡を経験されることを約束して下さっているのです。ですから、キリストがそうなされたようにクリスチャンの信仰と人生をも一言で言わせるなら、それは与える人生ではないのでしょうか。

<3. 与えて下さる三位一体の神様>

神様は私たちに天地万物を創ってくださり、罪人である私たちを愛したゆえに、ひとり子を与えてくださり、日々、私たちに良いもので食べさせ、着せてくださり、養ってくださる我々の大牧者です。イエスキリストはこの地に来られ、私たちのために愛の残るころなく与え、惜しまずにご自身のいのちまで与え、我々の罪を赦し救い出してくださいました。私たちが永遠の罪の奴隷から神様の子供とさせるために一滴(ひとしずく)の血でさえ惜しまず、与えてくださったのです。聖霊の神様も我々のためにたえず、とりなししてください、導いてくださり、愛してくださり、慰めてくださり、知恵と勇気を与えてくださる方です。このように三位一体の神様は我々にたえず与えてくださるお方です。神様の愛は世々に至ります。

すると、私たちはだれに与えるべきでしょうか。‘誰にでも与えなさい’と聖書は言われます。いつ与えるべきですか。

いつでも助けが愛が必要な人がいたら、与えるべきです。どうしてある時だけ与え、ない時には与えないようとするのでしょうか。すべてを目に見える物質で与えるべきだと勘違いしているからではないのでしょうか。

使徒の働き3章をみると、イエス様の弟子であったペテロとヨハネが祈るために宮にのぼっていました。ところが、宮の周辺には生まれつきの足のきかない男が施しを求めていました。彼はなにか施しを求めながらペテロとヨハネを見つめていました。そのときペテロはなんと仰言いましたか。

使徒の働き3章 6節【すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエスキリストの名によって、歩きなさい。」と言いました。】ペテロが言った時、彼はたちまちまっすぐに立ちました。まさに奇跡が起こりました。彼は歩き出し、はねたりしながら神様を賛美し、神様に栄光をかえしました。いつでも与えようとする心があるところには豊かな奇跡が起こります。

ユダヤ人たちの間で、言われてきている話の中でミドラシという話があります。

モーセが死ぬ前に救済について民たちにこのように教えます。“あなたがたが救済をよくすればのちには豊かになって、お金を借りに行く人もいなくなってくるはずだ。”すると民の一人が“そしたら、自分の所得のいくらかを救済すればいいのでしょうか。”“10分の1なら十分でしょうか。””もし私に救済するお金がないのに、また来たら、手ぶらで帰してもよろしいでしょうか。”このときモーセはこ

う言ったそうです。”お金がないなら助けが必要な人に愛の親切でも与えることができるのではないか。これはお金よりもっと大きいものを与えることになります。”

イエスを信じているクリスチャンなら自分中心から他人中心に考えが変わらなければなりません。主のため、兄弟姉妹のためいつも感謝する心をもって奉仕し、仕える時、まことの感謝と平安が訪れます。神様は神様と隣人に献身し、慕い求める信徒たちの器に神様の愛と祝福で満ち、感謝の日々にさせてくださると信じます。

<4. 与える者にあふれるほど与えられる神の祝福>

今日の本文に戻って、ご一緒にもう一度読んでみましょうか。

「与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいます。」(ルカの福音書6:38)

つまり、神様は与える人にはより良いもので報いてくださるという御言葉です。私たちの神様には負い目になさることはけっしてありません。かならず、神様は報いてくださいます。ですから私たちが善を行って、ほかの人を助けてもてなしてあげたのに‘何、お礼の一言もない’と怒る何の必要もありません。 **なぜなら神様はかならず報いてくださるからです。**

“人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。”という御言葉は神様の豊かな約束です。“量りをよくして(メロンカルロン:最善の分量)”という意味は“必要にふさわしい分量で与えられる”という意味です。ですからこの箇所の意味は自分にできるだけ多く最大限与えられるという意味です。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ与えることが祝福なのでしょう。おさない子供たちであればあるほど自分が受けようとするばかりで、その時が嬉しいですが、自分のお菓子を分けて与えようとするのが嬉しくないのではないのでしょうか。しかし、こどもたちが徐々に大きくなり、成熟すると与えることを学び、その価値を知ることになるように同じではないでしょう。 **信仰にも段階があります。** まだ未熟な子供のような信仰を持っている時は自分が受ける祝福、認められることだけ祈り、願い、考えます。周りがどうであっても、どうなっても重要じゃありません。しかし、イエスキリストのまことの慰め、御恵み、愛を経験すればするほどそのようなクリスチャンはイエスキリストがそうなされたように似てるように自分も与える者になって行きます。聖書ではそのような人が成熟されたクリスチャンであり、まことに祝福された者であると教えて下さっています。

聖書はこう語っています。(マルコの福音書9:41)「あなたがたがキリストの弟子だからというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。これは確かなことです。」「善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期がきて、刈り取るようになります。」(ガラテヤ人への手紙6:9)

神様はかならず、キリストの愛を持って分け与えることに忘れず、すべて報いてくださいます。そして「与えなさい。そうすればあなたがたに与えられる。」と言われました。私たちの神様はけっして負債を負うお方ではありません。

自分のものを喜んで分け与えるとき神様も私たちに与えてくださいます。

「この人は散らして、貧しい人々に与えた。その義は永遠にとどまる。」(第二コリント人への手紙9:9)と書いてあるとおりです。詩篇112篇9節にも、「彼は貧しい人々に惜しみなく分け与えた。彼の義は永遠に堅く立つ。その角は栄光のうちに高く上げられる。」

「蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増し加えてくださいます。(コリント人への手紙第二9:10)」

特に神様は貧しい人、特に困難な環境におかれている人々を覚え、彼らの必要を供給する人々を愛しておられます。礼拝を通して、神様の御前で充実に奉仕し、仕えなければなりません。そのとき神様はさらに感謝をささげられるように導いて くださいます。

いつか紹介したことがあります、同じ時代ノーベル賞を受賞したふたりがいました。1950年アルバートシュバイチャは【ノーベル平和賞】をもらい、フランス作家であるアルベルトカミュは【ノーベル文学賞】をもらいました。シュバイチャはその受賞金と財産をあわせてアフリカの難治の病気の患者たちのために病室を建て上げてこんにちまで多くの人々はその病室で癒されました。しかしカミュはパリの近くに別荘を作って週末には自分の快樂を楽しみました。しかしカミュは日曜日の朝の礼拝の時間に愛人と一緒にその別荘にむかう途中交通事故にあって死を迎えてしまいました。

世界の鋼鉄王と言われたカーネギーは“お金を残して死ぬことは恥だ。すべてを神様と隣人のために全部使って死ぬべきだ。”と言いました。正しいことだと思います。彼が一生懸命良いことのために使ったお金は約300億円くらいほどだったそうです。

私たちは子供たちに将来何かを残してやろうと恋々(れんれん)としているのではありませんか。しかし、忘れないでください。子供に金を残してやると兄弟の関係も、親子の関係もその金によって苦しくなるのみです。ですからまことに子供を愛するなら善をたくさん行ってください。分け与え、助けてあげる人生を見習うようにたくさん見せて下さい。かならずまいり分だけ刈り入れをみなさんの子どもたちの時代に報われると信じます。みなさんは今日何をまいているのでしょうか。

1839年、アメリカで生まれたジョンロックペラーさんは子供のころあまりにも貧しい生活をしたため、彼はおさないときに このような決心をしたそうです。‘私はこの世界で一番の金持ちになってやろう。’それでこどものころからお金を稼ぐのに夢中になって生活しました。そしてついに33歳の若いときに [スタンダード]石油会社の社長になり、若いときに百万長者になりました。そして43歳のときは、アメリカでは始めての大規模のトラストを形成して世界一番の財閥企業の総帥になりました。そして10年後である53年には世界に一人しかいない億万長者になりました。ロックペラーは彼の願いとおりに世界一の金持ちになりました。しかし彼はここで満

足せずにひたすらお金をもうけるのに忙しくする日々でした。そうしているうちに彼は不治の病にかかってしまいます。髪の毛は全部抜け、不眠症で眠れない夜を過ごし続けました。食べ物も消化ができず、一日中食べるものは、たった牛乳一杯といくつかのビスケットが全部でした。彼の主治医はロックペラーの受命は1年以内だと言われるくらいでした。いままでお金をもうけるのに血眼(ちまなこ)になっていたのに、彼には敵も多くありました。つまり、彼が死ぬことを首を長くして待っていた人もそれほど、多かったということです。

彼は死を目の前にして自分の人生を整理しながら、生まれて初めて自ら神様の御言葉である聖書を開いて読み始めました。そのなかで、決定的に自分の生涯においてなにが間違いだったのか悟られる聖句がありました。彼の人生を180度返った聖句が今日の本文の御言葉です。

“与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。人々は量りをよくして、押しつけ、揺すりいれ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返してもらいますからです。”

この御言葉をとおしてロックペラーはいままで自分がわしづかみで生きてきて、手を開いて分け与えることを知らなかったことに気づかされました。集めるには、今までは必死で集めたのだが、おそかけの自分の生涯を整理し、精算(せいさん)する心境の中で開いた御言葉を通して彼は悔い改めつつ、手を開き始めました。そして助けが必要なところに、貧しい人々に与え始めました。彼は多くの人々が神様の愛を知るように自分の財産の一部を教会に献金して、たてられた教会がニューヨークの名所である美しい教会[リバーサイドチャーチ]です。社会的にもあまり教育を受けられてない人々に学ぶ機会を多く与えるために彼の寄付によってたてられた大学がこんにち名門の[シカゴ大学]です。

そして1931年には慈善事業を体系的にするために[ロックペラー財団]をつくって彼の全財産を貧しい人々のために寄付する本当に意味ある働きに彼の最後の人生を費やしました。彼が手を開いている間、驚きの奇跡が起こりました。まず、彼の心に平安が訪れました。眠れなかった夜がかわって、眠れるようになりました。食欲も戻り、健康も徐々に回復してきました。確かに医者には彼が54歳を越えないだろうと診断されたのに、彼はどのくらいまで生きたのかご存知ですか。

98歳まで健康に長生きすることができたのです。一生、彼が慈善事業にささげたお金だけで5億ドルを超えるんだそうです。そして、彼の子どもたちもそのようなお父さんの姿を見習って、たくさんのお金をまずしい隣人のために使ったそうです。“寄るべのない者に施しをするのは、主に貸すことだ。主がその善行に報いてくださる。”(箴言19:17)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！私たちの神様は真実な方です。神様はどんな形でも、だれをとおしてでもかならず分け与えたことに忘れず報いてくださいます。私たちの神様はけっして借りる方ではありません。私たちが与える人生を送るとき神様はもっとよいもので報いてくださると信じます。みなさんにあるもので何でも与えるクリスチャンになって下さい。キリスト者と言われるクリスチャンはみんなイエスキリストがなされたように似て行く者たちです。

覚えて下さい。今自分が所有しているすべてがただ神様からしばらくの間預けられた主のものであります。ですから、すべて自分が所有しているのが本当は自分のことではありません。むしろ与えたことが自分のことになります。神様が与えたその手とその分を覚えて下さってさらに与えて下さるからです。自分が持て置いているまま、この世を去ると、所有していたすべてのものは結局神様が預けて下さったのにもかかわらず使わず、ただ浪費してしまっただけになります。そして神様の御前でその結果に対する責任が問われるでしょう。十字架につけられる前に信じ、従っている弟子たちに残るところなくすべての愛を示されたイエス様のように、みなさんが持っているキリストの愛を惜しみなく与えてください。

みなさんが持っているものを、親切を、暖かい言葉を、みなさんの祈りを与える者になって下さい。何よりも我々が知り、持っているこのイエスキリストの救いの愛の福音を分け与える者になって下さい。いつ与えられたこの地上での人生が終わるかだれもわかりませんが、生きておられる主の御前に立った時は後悔しても追いつかないのです。

まもなく、来週からアドベントが始まり、クリスマスが近づいて来ています。主はご自身がそうなさったように私たちをも与える者になることを願っておられます。与える人生が幸いです。神様は与える人生と信仰となる者たちに今も豊かな満ち、さらなる祝福を与えて下さっています。与える人に必ず主から与えられます。自分のものが主のものであると信じて、感謝と喜びを持って分け与えることにより神様からはさらにゆすり入れ多くのものが与えられ、豊かにされる祝福が残りの今年に私たちと教会の上にありますよう主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！